

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891500122		
法人名	医療法人 いちえ会		
事業所名	グループホーム いちごの家・上物部		
所在地	兵庫県洲本市上物部951番地1		
自己評価作成日	平成26年11月	評価結果市町村受理日	2016年 1月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人ひとりの思いを尊重し、個別に支援している。毎日がゆとりのある生活ができ、安心して過ごせるよう努めている。利用者・家族・地域住民との出会いを大切に思い、良い関係を築けるよう努めている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.net-kawani-shi.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成27年12月8日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>隣接する子育て支援ハウス子ども達がオープンテラスで遊び、利用者と和やかにやり取りしている。同じ隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の地域交流スペースで、地域主催の百歳体操に参加する利用者もいる。職員のアドバイスを受けながら、週2回、一人で通院する利用者も見られた。日中は、ほぼ全員がリビングで過ごす。職員と一緒に洗濯物を畳み、食事の準備や後かたづけを手伝い、イベントの材料作りにいそむ利用者の姿もある。利用者各々の個性や能力を最大限に活かし、安全管理を図りながらもリスクを恐れず、支援する事業所の方針は一貫している。地域との連携は始まったばかりといえるが、着実な一歩を踏み出している。今後も事業所の持つ知識、アイデアを提供し、地域と共に歩んでほしい。まだまだある大きな可能性の存在に期待したい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「一期一会の心を持って…」の一期一会を念頭に置き、利用者・家族・地域住民との出会いを大切に思い実践に思い実践につなげている。	法人理念を事業所内に掲げ、職員は大切に、日々認識している。今年度は合い言葉としての「気配り&気配」のほか、接遇委員会による「優しいふるまい」も視覚化している。それぞれが、実践につながる具体的な行動規範となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭など同法人内での行事参加を通して交流を図っている。地域の清掃にも参加し散歩時は挨拶を交わし会話することもある。近くの幼稚園と行事などの交流を図っている。百歳体操に参加している。	毎年開催の法人主催の納涼祭は、百人規模の地域行事として定着している。年2回の地域清掃には職員、利用者で参加している。幼稚園児とのイモ掘りや地域主催の百歳体操への参加などもあり、地域との日常的な付き合いが徐々に広がりを見せている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での議題として利用者様の訴え時の対応法・対応後の様子などを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、市、家族の助言や要望などを聞き、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の内容を全家族様に報告している。	町内会代表、市職員、家族、認知症を抱える家族の会等が出席している。事業所からの各種報告や事例紹介に対して、家族からの具体的な質問があり、活発な話題を提供している。地域や市からの情報提供を受け、外出のきっかけや新たな地域とのつながりに効果をもたらしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にてホーム内の課題、実情を伝え相談している。	運営推進会議への出席をはじめ、議事録配布や更新手続きなどで積極的に窓口を訪ね、顔の見える連携を図っている。法人窓口を通じての連携と並行して、事業所独自の関わりも大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の扉の鍵は利用者が望まない限り鍵をかけない。玄関の鍵は、朝から夕方まで開錠している。利用者が玄関の方へ行き、外出希望された時は、散歩に行くなど対応している。	法人内、事業所内研修に毎年位置づけ、学んでいる。一切の身体拘束を行わないケアを実践している。スピーチロックに関しても身体的拘束となることを認識し、不適切なケアについては、職員が互いに注意できるよう努力している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修会、同法人内の勉強会へ参加しており、参加した職員は後日、全職員に公表している。日々、過ごしている中で職員の対応や利用者の様子で変化がないか気を配っている。	法人内の研修はもとより、外部研修にも毎年参加している。管理者は、常に職員への声かけや観察をし、虐待につながる芽を摘むことを心がけている。職員は今年度の目標である「優しいふるまい」を基礎に、虐待のないケアの実践につなげている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での勉強会などへ参加し、必要な方には資料を提供し説明している。施設でも勉強会を行い、全職員の知識を高めるよう努めている。	管理者が外部研修を受け、職員は内部伝達研修で学び共有している。現在、制度利用者はいないが、職員は家族からの質問には答えられる基礎知識を身につけ理解している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問に対し解りやすく説明しカンファレンスを行い対応している。解約又は改定の際は資料を変更し、詳しく説明している。各利用者、各家族に合った説明を行うよう心掛けている。	管理者が、重要事項説明書、事業所パンフレットや関係資料を共に提示し、丁寧に説明している。見学も随時可能である。現在一室空床があり、希望があれば一泊体験の余地もある。通院や看取り等も含め、家族の協力の必要性についても理解を得て契約に至っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に困っている事、要望などを聞き取りカンファレンスを行い対応している。運営推進会議に出席された家族には意見や要望を発して頂くよう努めている。	安全管理上ベランダの全開は行われていないが、利用者や家族からの希望で、リスクを説明したうえで理解を得て解除している居室もある。また、刻々と変化する利用者の状態に応じて、利用者や家族の意見を聞き、環境の変更に対応した事例もある。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを開き意見交換している。管理者は常に全職員とコミュニケーションをとり意見を提案できるような雰囲気作りに勤めている。定期的に全職員と個別面談を実施している。	管理者は、会議や面談で職員からの意見を聞いている。入浴後に洗濯干すのに30分を要していたが、その時間をレクリエーションに充てたいとの提案が出され、さっそく実行した。メニューに変化を持たせたいとの要望から、職員一人一品の新メニューを考案し、レシピ作りを行なった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に伴い、手当等支給や昇格を実施している。管理者は全職員の勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう目標を設定し勤務できるよう整備している。管理者は定期的に職員個々と面談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(月4・5回)の研修にできるだけ多くの職員が参加している。実践者研修や管理者研修にも、受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所申込者等の確保、情報提供を定期的に連絡を取り、交流を図っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時や契約時は、丁寧に本人や家族への聞き取りを行い、ケアプランには本人の要望を聞き入れている。家族が遠方の利用者には特に耳を傾け安心できるように努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランには本人、家族の要望を取り入れている。家族との外出時の様子、困ったことを尋ね、家族が安心して過ごせるような関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に本人、家族に移行を聞き状態を見極め対応している。申込み時には、様々なサービスがあることを伝え、その時に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを尊重し、毎日が安心して暮らせるよう実践している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への受診など、できるかぎり家族にお願いし外出の機会をもうけ、家族と職員が相談し協力し合い支援している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮らしていた近隣の方が面会に来て下さっている。知人の家に出掛けることもある。散髪や病院など今までの環境を変えず、家族と共に支援している。併設施設に知人も居るので交流している。	かかりつけ医への受診や、近所の馴染みの友との交流を自力で楽しんでいる利用者がある。家族の協力で美容院や買い物にも出かけている。併設の小規模多機能型事業所へ、職員の介助で会いに行く人もある。可能な限り、利用者のもてる力によるなじみの関係継続を支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、生活する上で、利用者同士が張り合う気持ちを持って、協力し生活できるよう努めている。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の次の行先を把握している。入院された方には、常に家族と連絡を取り困ったことを聞きアドバイスしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話を聞き希望、意向を把握している。意思疎通が困難な方には、家族に希望を聞き取り、日常生活での会話、表情を観察し把握するよう努め、家族と協力し叶えるよう努めている。	入居前の聞き取りはもちろん、入居後も折に触れ思いの把握に努めている。意思疎通が難しい利用者は、家族の代弁によることもある。また、日頃の利用者同士の関わりなどでの細かい観察から読み取るようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から入所前に生活歴など情報を頂いている。施設からの入所の方は、サービス担当者から情報提供して頂き、その人らしい生活ができるよう努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の有する能力、現状況の把握に努め、随時カンファレンスを行い、変化に対応できるよう実践している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の評価を家族に報告し、新たな意向や希望を伺い、ケアカンファレンスにて職員間で検討している。入所前の生活を関係者や家族、利用者から聞き、より良く生活できるよう努めている。	職員全員で利用者の思い、家族の希望を把握し、ケアマネが介護計画を作成している。毎日のカンファレンスで振り返り、6か月ごとに計画の見直しをしている。担当者会議への利用者、家族の参加は見られない。	担当者会議に、利用者や家族の参加を検討されてはいかがか。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づき・工夫を詳しく個別記録し、業務日誌にも記録している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が地域で、その人らしく生活できるよう支援している。		

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設の子供と交流し、楽しく生活できるよう取り組んでいる。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する病院で受診している。受診は家族をお願いしている。詳しい状況を伝えたい場合は、書面を作成し医師に報告している。家族が遠方の利用者には、特に家族と連携を取り協力し合っている。	利用者、家族の意向を優先し、これまでのかかりつけ医に家族が付き添っている。都合でやむをえない場合は職員が支援することもある。利用者の体調変化や状態についての詳細は、統一の様式文書で報告している。家族とは常に利用者の状態把握に努めている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名が勤務しており、利用者の日常の様子を常時、報告している。変化が見られた時は、判断していただき受診などの対応をしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、担当医・看護師・介護士から情報収集し、家族と連絡を取り、安心して治療を行えるよう努めている。長期入院で退所した際は、退院後、法人内で入所できるよう協働している。法人内の病院と施設で良い連携が取れるよう会議を実施している。	転倒防止に努め、早めの受診を心がけている。やむをえず入院があった場合は、退院の可能性を見極め、家族を交え医療関係者と話し合い、退院後の受け入れ等を相談している。車椅子対応になった場合は、法人内外での受け入れ施設を用意するなど、安心できる体制を確保している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期のあり方について、事業所のできることを、方針などを説明し、家族の意向を聞き話し合っている。週末期についての勉強会を施設内で行っている。喀痰吸引の研修に参加し、資格の取得に努めている。	契約時に、事業所の方針を説明し、利用者、家族には納得を得ている。利用者、家族の意向を尊重し、可能な限り事業所での生活継続を目指している。職員は緊急時対応と併せ、ターミナルの研修にて学んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で定期的に勉強会や訓練を実施している。全職員が初期対応できるよう指導し、身に付けている。救命救急講習も受講している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設での火災訓練に参加し、事業所でも火災訓練を実施した。地震・水害の避難場所、避難方法を身に付けている。毎月、施設内で災害・火災訓練を実施。地域住民にも参加していただき消防訓練を実施した。	昼夜想定、機器の取り扱い、緊急時での連絡手順等、毎月訓練を実施している。避難誘導訓練時は利用者も一緒に行っている。地域住民への協力依頼も継続して行うなど、協働による訓練も実施し、協力体制を深めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や写真掲載については、契約時に説明し同意を得ている。各利用者に向けた声掛けや対応に努めている。大きな声で声掛けをしないよう心掛けている。	利用者のできることは、自身でもらうよう促し、可能であれば新しいことにも取り組む働きかけを行っている。いろいろな体験や、やってみることで新しい発見が期待できるのではと考えている。特性を十分理解し、その人らしさを引き出すよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを取り、利用者の希望に出来る限り応えるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、その日その時の利用者一人ひとりの体調や気分に合わせて対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、利用者を選択していただいている。外出時には化粧をされる方もおり、身だしなみも声かけし支援している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付けは、声かけし一緒に行っている。後片付けは、利用者が率先し取り組んでいる。行事や誕生日などでは献立の希望を聞き提供している。食べられない食材・メニューについては、個々で変更している。	職員が利用者と共に買い出し、調理、盛り付けを行っている。地元の旬の野菜や魚を使った家庭料理が中心で、一緒に食べる食事は会話が弾んでいる。男性利用者も、野菜の下ごしらえを手伝っている。誕生日などの特別な日は利用者の希望メニューが反映されている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者の状態に合わせて調節している。利用者により水分チェック表へ記入し水分量の把握に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。義歯の方には、毎晩 義歯を消毒液に浸けている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導して排泄の失敗、おむつの使用を減らすよう支援している。職員で話し合い、個々に合った尿パットを使用するよう努めている。	自分で行く人もいるが、それ以外はその日の体調や様子から、さりげなく誘導するようにしている。声かけのタイミングには注意し、その人に応じた声のかけ方を心がけている。夜間は、意向で声かけすることもあり、ポータブルトイレを利用している人もいる。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など運動し、十分な水分補給をして頂き、一人ひとりのチェック表に記入している。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度や入浴時間は、個々の希望を聞き支援している。入浴拒否の方に対しては、機嫌や気分の善し悪しを観察し声掛けしている。入浴が嫌いな方には音楽を流すなど、楽しく入浴できるよう工夫している。	利用者のペースや好みの時間、湯温等を調整し、ゆっくりくつろいでもらえるようにしている。無理強いしない声かけに努め、好きな音楽をかけるなど、楽しみながら入ってもらっている。職員とのおしゃべりも楽しみにしている。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるよう日中は散歩や家事などで活動している。無理強いせず、毎日の体調や気持ちに合わせ支援している。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬剤情報提供表にて全職員が把握している。服薬管理できない方には、職員が手渡し服薬確認している。服薬忘れがないように服薬チェック表を使用している。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム横の畑にて野菜作りをしており、水やり収穫などしている。一人ひとりの生活歴を家族より聞き、趣味(編み物など)や楽しみごとに取り組んでいる。		
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事などで利用者の行きたい場所の希望を聞き外出支援している。家族の方も外食や実家へ行くなど協力して下さっている。一人暮らしをされていた方には、職員が同行し自宅に帰る支援をしている。	食材の買い出しや、日用品の買物等、利用者の希望に応じて外出している。家族の協力により、通院のついでに外食したり、自宅に帰省してひと時を過ごすこともある。初詣も恒例となっており、近くの神社に参る。好きなカラオケに行っている人もいる。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できない方については家族より預かり、買い物時の支払いは自己にて支払って頂くよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから荷物や手紙が届いた時など、利用者が電話をしたり手紙を送れるよう支援している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節を感じる物を飾っている。共用スペースは清潔を保つよう掃除をしている。室温や湿度は湿温計をチェックし調節している。利用者一人ひとりが居心地の良い場所、良い相手と日々過ごされている。	複数の食卓テーブル、テレビコーナーのソファ等、利用者は思い思いに過ごしている。クリスマスの飾りが、さりげなく飾られている。敷地内の畑で、利用者、職員が協力して野菜作りを楽しんでいる。ベランダには洗濯物が干され、利用者が取り入れ畳んでいた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、食卓椅子、畳の間で利用者が、それぞれ穏やかに思いのまま過ごせるようにしている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが必需品、好みの物を持ってこられている。ホームでの写真や家族との写真を居室に飾っている。転倒などを考慮し、安全に生活できるよ家具などの配置をしている。	ベッドとクローゼットが常設され、ゆとりある広さとなっている。整理棚、椅子や机、敷物が置かれている。ハンガーには、好みの服が掛けられている。クローゼットには、季節毎の衣類や日用品が収納されており、家族の協力を得ながら整理している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて声かけや目印をつけ、安全に生活できるよう常に心がけている。		